

令和8年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（No. 2）

令和8年6月26日
鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

6月25日現在、葉いもちの広域発生は確認されていない。

気象1か月予報によると、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されているが、本田におけるいもち病の伝染源となる置き苗の処分を徹底するとともに、ほ場の見回りを行って、本病の早期発見に努め、状況に応じた適切な対応を取ることが必要である。

2 水稲いもち病発生予測システム（ブラスタム）の判定結果等

(1) ブラスタムによる葉いもちの感染好適条件又は準感染好適条件は、6月2日、4日、9日、22日及び23日に広域で出現した（表1）。

表1 ブラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	青谷	岩井	智頭	倉吉	塩津	米子	境	茶屋
6/1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/2	—	—	—	○	—	—	—	—	○
6/3	—	—	●	—	—	—	—	—	—
6/4	●	—	●	●	—	—	—	—	—
6/5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/6	—	—	—	—	—	—	—	—	○
6/7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/9	—	○	●	●	—	—	—	●	○
6/10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/11	●	—	—	—	—	—	—	—	—
6/12	—	○	—	—	—	—	—	—	—
6/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/14	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/15	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/16	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/17	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/18	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/19	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/20	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/21	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/22	—	—	—	●	—	—	●	—	●
6/23	●	●	—	○	—	—	●	—	—
6/24	—	—	○	—	—	—	—	—	—

注) ●感染好適日、○準感染好適日、／判定不能
判定不能は、気象データの欠測等によるもの

* ブラストムについて

ブラスタムとは、アメダスの気象データを用いて、葉いもちの感染に好適な条件であったかどうかを広域的に判定するシステムである。いもち病は感染後、発病するまで約1週間かかるため、感染好適日が広域に出現してから、約1週間後に広域に新しい病斑が確認できる。

(2) 6月25日発表の気象1か月予報によると、平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されているが、梅雨時期であるため、置き苗を撤去する等、伝染源の除去に努める。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 置き苗は、本田のいもち病の伝染源となるため、早急に処分する。
- (2) 育苗箱施用剤を使用しても十分な効果が得られない場合があるため、ほ場の見回りなどを行い、早期発見に努める。
- (3) 「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「きぬむすめ」などの本病に弱い品種の栽培、窒素肥料の多施用、遅植えなどの条件では発生しやすい。上位葉に急性型病斑がみられた場合は、病虫害防除指針などを参考にして、直ちに治療効果のある粉剤、水和剤などにより防除を行う。
- (4) 本田施用粒剤（オリゼメート粒剤等）を使用する場合は、予防防除が基本であり、発生後では十分な効果が得られない。なお、粒剤を使用する場合は、各薬剤の使用基準を確認して湛水散布を行う。
- (5) 降雨が続く場合は雨の止み間に防除を行い、適期を失しないようにする（粉剤散布後から降雨が3時間程度なければ防除効果は十分にある）。
- (6) 鳥取県では、平成26年にストロビルリン系薬剤耐性イネいもち病菌の広域発生が一部の地域で認められ、平成27年以降、本系統薬剤の使用を中止していた。しかし、その後のモニタリング調査から、現地ほ場において耐性菌が生存している可能性は低いと考えられたため、令和5年から県内全域の一般ほ場において、本系統薬剤の本田地上散布剤及びヘリ防除剤の使用を可能としている。ただし、耐性菌の再発生を防ぐために、本系統薬剤の同一年における連用と採種ほ場及びその周辺ほ場における使用を控える。
- (7) 防除にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。